

グリーンインフラを活かして、将来も発展する印西に

2019年2月15日 印西市環境市民会議

小山尚子

1 グリーンインフラとは

2 「ひと、まち、自然 笑顔が輝く」印西こそ、グリーンインフラの考え方を

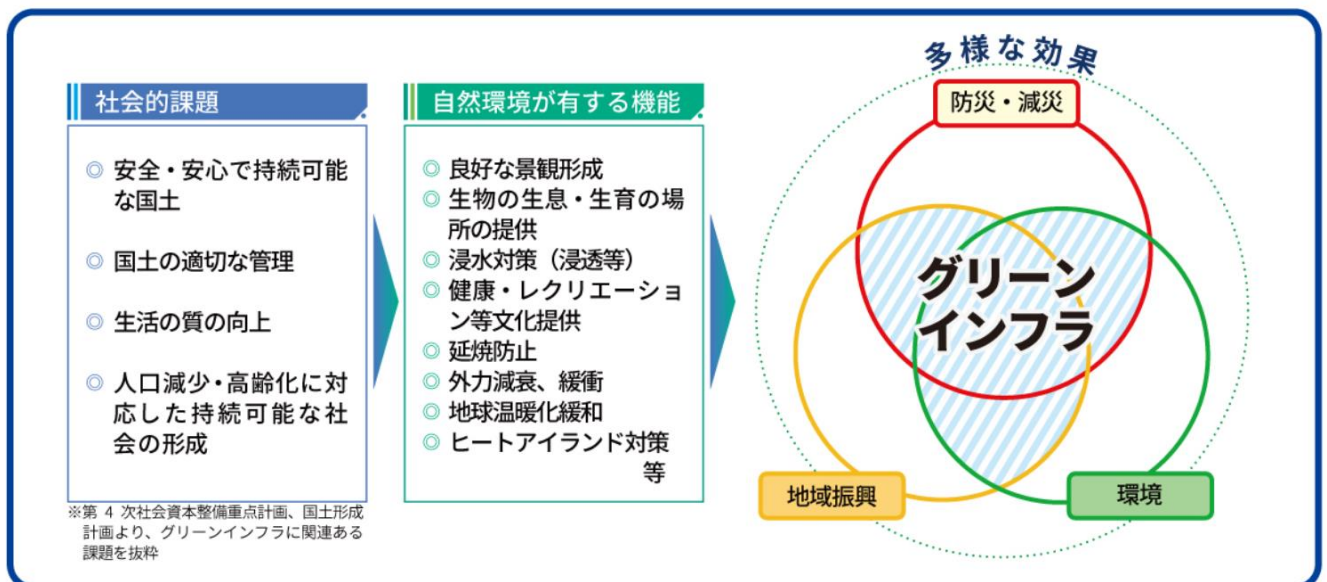
資料 国交省作成資料（国交省ホームページなどから抜粋）

① グリーンインフラとは

○グリーンインフラの当面の考え方

グリーンインフラを取り巻く国内外の状況に関する調査結果、従来の当省の取組を踏まえ、グリーンインフラの当面の考え方をとりまとめました。

- ・ 「グリーンインフラ」とは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの。（＊現行の国土形成計画における定義と同様）
- ・ 従って、自然環境への配慮を行いつつ、自然環境に巧みに関与、デザインすることで、自然環境が有する機能を引き出し、地域課題に対応することを目的とした社会資本整備や土地利用は、概ね、グリーンインフラの趣旨に合致する。
- ・ これらの取組は、河川、海岸、都市、雨水貯留浸透、道路、国土管理等既往の社会資本整備や土地利用に多く見られることから、こういった取組を「グリーンインフラ」と呼称するか否かは、当面重要ではなく、かかる取組の推進により自然環境が有する機能を引き出し、地域課題に対応していくことを通して、持続可能な社会や自然共生社会の実現、国土の適切な管理、質の高いインフラ投資に貢献するという考え方が重要。



○ 防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供への貢献等、地域課題への対応

○ 持続可能な社会、自然共生社会、国土の適切な管理、質の高いインフラ投資への貢献

② 水辺から始まる生態系ネットワークの形成と地域振興

- 川は、森林や農地、都市などを連続した空間として結びつける国土の生態系ネットワーク
- 「川の中を主とした取組」から、流域の「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」へと視点を拡大



1

③ まちづくりにおけるグリーンインフラの取り組み

- 一部の地方公共団体では、都市全体から住戸単位まで様々なスケールの都市空間（公園緑地、農地、水環境、道路、建築物、庭等）において、行政・住民・事業者等の様々な主体が関わりながら、グリーンインフラがもつ多様な機能を生かし、安全で快適な都市の環境を守り、街の魅力を高めるまちづくりを計画的に推進。

緑の基本計画に位置づけている例（世田谷区）

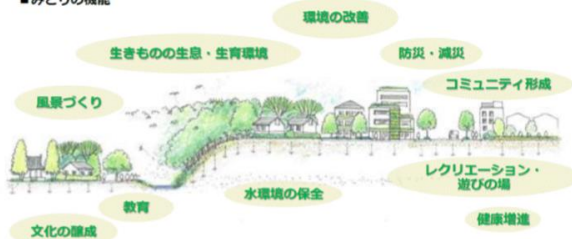
<世田谷区みどりの基本計画 2018年度～2027年度>

- ・多面的かつ複合的な機能を有するみどりを、人間や生きものの生存や暮らしを支え、安全で快適な都市の環境を守り、街の魅力を高める、街づくりには欠かせない重要な社会基盤（グリーンインフラ）と位置づけ、みどりの量の確保、みどりの質の向上、区民との協働の側面から、総合的にみどりづくりを進めていくこととしている。

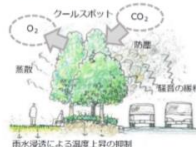
■計画における「みどり」



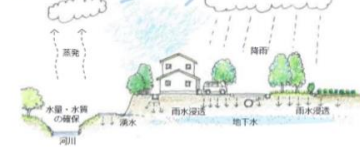
■みどりの機能



■環境を改善する機能



■水の循環



（「世田谷区みどりの基本計画 2018年度～2027年度」より引用）

④ 公園緑地におけるグリーンインフラの推進

- グリーンインフラの推進には民間企業と連携し、持続可能な運営を図ることが有効。
- 公園緑地の整備・維持管理に民間企業の資金・ノウハウを活用する例がみられる。

民間再開発による緑化と一体となった公園の整備

<二子玉川ライズ(東京都世田谷区)の取組>

- ・多摩川と国分寺崖線の環境をつなぐ生態系ネットワークの形成に配慮し緑化等を行った商業施設等を民間再開発で整備
- ・大規模都市公園を世田谷区が民間再開発と一体的に整備
- ・世界初の「LEED ND(まちづくり部門)」※1のゴールド本認証や、「JHEP認証」※2の最高ランクAAAを取得



公園広場の地下に埋設されている雨水貯留施設 再開発により約6千㎡の屋上緑化など
約1万㎡を緑化 (二子玉川ライズパンフレットより引用)

※1 米国の民間非営利団体・米国グリーンビルディング協会が開発した環境性能の評価指標「LEED」のうち、街全体の都市計画や環境配慮基準を評価する制度。
※2 (公財)日本生態系協会が生物多様性の保全や回復に資する企業等の取り組みを客観的に定量評価し、ランク付けした認証を行うもの。

民間による都心の緑地の整備・維持管理

<大手町の森(東京都千代田区)の取組>

- ・皇居の森と連携した自然の多様性を持つ森を、東京建物(株)等が、都市再生特別地区制度を活用し、複合ビルと一体的な公開空地として整備
- ・にぎわいの場を創出するとともに、都心における生態系ネットワークの形成、ヒートアイランド現象の緩和、雨水の一時貯留施設としての機能も発揮



自然の多様性を持つ森を整備した「大手町の森」

11

⑤ 自然環境の機能を活用した国土交通行政の取り組み

- 従来の社会資本整備事業や土地利用の取組では、自然環境が持つ防災・減災、地域振興、環境といった各種機能を活用した取組を既に実施している。
- これらは「グリーンインフラ」と称していないものの、河川、都市、海岸等幅広い分野で、社会資本整備事業や土地利用に求められる効果を発現させるため、自然環境が有する機能について、地域とのコミュニケーションを図りつつ、技術的検討、制度上の機能担保等を十分に行ったうえで活かしている。



⑥ グリーンフラとSDGs

- 持続可能な開発目標(SDGs)は2015年9月の国連総会において採択(17の目標)
- 17の目標は相互に関係しており、複数の課題の統合的な解決や、1つの行動によって複数の側面における利益を生み出すマルチベネフィットを目指すことがSDGsの特徴
- 自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるグリーンインフラの推進は、SDGsの目標達成にも貢献するものと期待

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



2

代表的なG I 取組事例：円山川の治水対策／同河川を軸とした生態系ネットワーク形成の取組

※公表資料等を基に総合政策局環境政策課作成



実際のグリーンインフラへの取組みにより、複数のSDGsの目標達成に寄与

3